

## A.ギデンズ『近代とはいかなる時代か?』Ⅱ章

## Ⅱ -モダニティの特性とグローバル化について-

75 **モダニティの制度特性**

—モダニティという制度は、支配的な単一の制度で語れるものではなく、次の密接に関連した四つの特性を持っていると解するべきである。(P.80 図参照)

76 ① **資本主義**＝資本家と賃金労働者が階級システムの中心をなす経済の仕組み。

77 **資本主義社会の特徴** ( i ) 自由な競争のもとに、絶えず、広く、技術革新を追求する  
 ( ii ) 政治制度とは別個のものである(経済と政治の遮断)  
 ( iii ) 労働が商品化され、生産手段の私的所有が顕著である  
 ( iv ) 国家の自治権は資本蓄積に条件付けられている

78 ※ ただし、活動範囲が世界的に広がっている資本主義社会が1つの「社会」をなしているのは、資本主義社会が**国民国家**であるから。国民国家は、近代的制度の普及と膨張を促進していった重要な制度要素のひとつ(83)。

**国民国家の特性**

- i) 行政での**中央集権化**が進んでいる。
- ii) **明確な境界線をもつ領土**に対する一元化された統制が可能である。

② **工業主義**＝人間の欲求を満たすために自然界の原材料を加工して、機械装置を中心に行うモノづくりの仕組み。日常生活にまで影響を及ぼす。

③ **監視**＝一定の領域で被統治対象の住民の活動を、情報の管理に基づいて間接的に管理する仕組み。資本主義を採用する国民国家にとって必須のもの。

④ **軍事力**＝前近代では軍事指導者が握っていた暴力手段を、明確に規定された領域内で、近代国家が管理するようになった。軍事力が工業主義と一体化し、「戦争の工業化」を引き起こした結果、戦争は総力戦になり、核が登場することになった。

79 **クラウゼヴィッツへの批判** クラウゼヴィッツは19世紀に戦争と国家について、「戦争は国家の政治的外交手段の延長である」と論じたが、すでにその時代には、戦争で得られる利益より損失の方が大きくなっていたために、時代遅れの分析だった。

81 ▼ **資本主義と工業主義**：常に変化を求め、「拡大再生産」を行う資本主義は、工業主義を刺激した。(絶え間ない競争に勝つために、効率的で安価な生産過程を工業技術に求めた。) また、商品化

された労働力（「抽象的労働」）を生産計画の中に直接組み入れることができるようにした。

- 82 ▼ 資本主義と軍事力：前近代国家の階級システムは、経済的関係ではなく、むしろ暴力手段による強制で維持されていた。しかし、資本主義の出現によって、階級システムは変質し、資本家と労働者の結びつきは、「全人格」の支配等ではなく、「抽象的労働」の雇用という形で成立するようになった。支配階級が所有していた暴力手段は押し出され、国家権力が管理することになった。

83

モダニティのもつダイナミズムの3つの源泉（時空間の拡大化、脱埋め込み、再帰性）は、モダニティの制度特性によって条件付けられているが、それだけでなく、そうした制度特性とも密接に関連している。

84

### モダニティのグローバル化

—モダニティは、本来的にグローバル化していく傾向がある。

85 **グローバル化とは** 「ある場所で生ずる事象が、はるか遠く離れたところで生じた事件によって方向づけられたり、逆に、ある場所で生じた事件がはるか遠く離れたところで生ずる事象を方向づけていくというかたちで、遠く隔たった地域を相互に結びつけていく、そうした世界規模の社会関係が強まっていくこと」

86 →ただし、シンガポールの繁栄が、米国ピッツバーグの疲弊と因果関係を持っているかもしれないように、全体として同一方向への変化を必ずしもたどらない。

### 二つの理論的視座

—グローバル化をめぐる代表的な二つの議論がある。

#### 87 ① 国際関係論の議論

**国際関係論者** 「国民国家は、国際社会という舞台で関わり合いをもつ行為者で、互いに相互依存し、「ひとつの世界」へと一体化し始めている」

#### 88 **ギデنزの疑念**

- i) 国家を行為者としてみなすことは、前近代の国家に関しては意味をなさない。また、たんに国家の境界を横断して展開するだけの社会関係について説明できない。
- ii) 近代国家の主権は一体化し始めているというよりは、最初から国家間の関係に依拠しているものである。また、主権の発展過程は一様ではない点も考慮すべきである。

89

#### ② 「世界システム理論」の議論（ウォーラステイン）

**ウォーラステイン** 近代以前は、世界経済は大帝国を軸に展開しており、そうした国々の権力が一定の地域以外に及ぶことはなかった。それに対して近代は、資本主義の出現で、経済の影響範囲が初めて真に全地球規模に及び、政治的支配を達成できなかった地域も経済的支配によって

90 結びつけることが可能になった（「世界資本主義経済」）。

### ギデンスの不満

91 「個別社会」よりもグローバル化した関係性に注目したこと、前近代と近代をはっきりと区別したことは評価できるが、経済的影響力を過大に重視しているため、国民国家についての問題などを十分に説明できていない。

### グローバル化の諸次元

—モダニティの制度特性の四分類に従って、グローバル化についても次の四つの次元で説明できる。（P.92 図参照）

- 92 ① **世界資本主義経済**：経済を政治から遮断したために、営利企業は本拠をある国に置きながらも世界中に展開できるようになった。営利企業は経済力を振るうことによって、政治的方針に影響を  
93 及ぼすまでもなった。とはいえ、世界資本主義経済が世界全体を支配しているといえるわけではなく、領土管轄権と暴力手段の管理は国家所有の力。また、経済的要件だけが国民国家の物質  
94 的事情を支配しているわけではない。
- 95 ② **国民国家システム**：国民国家の主権は、他の国がその国境線を承認することによって生まれた。前近代の国家システムには「国際関係」という概念はない。国民国家は中央集権化するが、他方で国家間の国際協調によって、自国の主権を縮小させたり、その代わり影響力を増大させたりする。
- 96 ③ **世界の軍事秩序**：戦争が工業化と、武器類や戦闘技術の流出と、同盟関係との相互の結びつきによって、軍事力がグローバル化。近代兵器が少量でも多大な破壊力を持つようになった結果、経済的に非力である国々にも手に入るようになり、兵器に関して「第三世界」は存在しない。また、核兵器の登場によって、戦争のあり方が大きく変わった。つまり、核兵器による戦争は世界中を  
97 巻き込むので、得られる利益より被る損失の方が大きくなり、核保有は核使用を抑止することを目的とする兵器として働くことになった。ただし、このことは核保有大国同士の戦争の可能性は一時停止させるが、代理戦争を引き起こす。
- 98 ④ **国際的分業**：工業のグローバル化。技術力、原料生産地等によって全地球規模で分業が拡大し、地球規模での経済的相互依存が加速している。その結果、「産業の空洞化」や「新興工業国」が  
99 出現。さらに、コミュニケーション技術の変革(印刷術の発明など)という重要な帰結をもたらした。このことはモダニティの持つ再帰性、非連続性にとって本質的な要素をなす。

100